

## 2020年度文部科学省・日本人学校教育環境整備事業

### 「ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業」

#### 講評

評価者： 武 一彦

亜細亜大学 非常勤講師

#### 学校名

チカラン日本人学校

#### キーワード

計画的なインフラ整備

学びを止めないことに重点を置いたオンライン授業の構築

児童生徒、教職員、保護者が連携した非常時への対応

#### 講評

最も新しい日本人学校のひとつである同校は、開校時のICTインフラ整備こそ不十分でしたが、今回のコロナ禍で学校を取り巻く環境が変化したことに迅速に対応、対面授業ができない状況でも学びを止めないためのオンライン授業を導入、その後も計画的に学習環境整備を行っています。

開校2年目の2020年4月段階では回線環境も最低限しか確保できておらず、小規模校とはいえオンライン授業の時間調整に苦労しましたが、本事業の活用により同校全体で同時に使用できるネットワーク環境が構築できたことに加え、オンライン授業に不可欠なソフトウェア、周辺機器やセキュリティ確保を適切に見直し、無駄のない環境整備ができたことは、本事業の重要な目的である学びの保障のために極めて有効かつ適切な投資であったと評価します。

また、児童生徒、教職員だけでなく保護者へのアンケートを通じて学校の進めている授業やICT環境への評価や効果を収集、また同校独自のオンライン授業事例集、学習指導案集を作成したことも的確な校務運用として他校への参照事例となるものであり、特に児童生徒の2回にわたるアンケート調査の結果で見えてきているいくつかの問題点は次のステップへの適切なスタートであると理解できます。

2学期以降、対面授業が可能になってからも、分散登校下での授業のライブ配信、企業との連携によるオンライン社会科見学、他校や一時帰国している児童生徒とのオンライン交流、日常の授業からのアイデアの蓄積など今後への期待値は高く、さらに教員からの一方通行になりがちなオンライン授業の弱点を避けるべくインタラクティブな授業の研究、情報リテラシーも課題として認識しており、本事業の効果を一瞬だけで終わらせないという学校としての決意は今後への期待を高めるとともに、本事業に関して教職員が一体となり適切な計画と教育体制の整備がなされたことを高く評価し、まとめとします。